

茶園でのチャノホコリダニの発生活長と防除法					
<p>[要約] チャノホコリダニは、煎茶園、玉露園とも8月中下旬から発生がみられ、9月に急激に増加する。弧状仕立て茶園では、10月上中旬の整枝により、発生が著しく減少するので薬剤防除は不要である。自然仕立て茶園では、11月下旬まで発生がみられるため、発生初期の9月上旬頃の薬剤防除、12月の摘心が必要となる。</p>					
担当部署	八女分場・茶研究室			連絡先	0943-42-0292
対象作目	茶	専門項目	病虫害	成果分類	生理生態

[背景・ねらい]

近年、チャノホコリダニは、県内全域の茶園で多発し、茶葉が萎縮するといった被害が確認され問題となっている。そこで、チャノホコリダニの煎茶園、玉露園における発生活長及び防除時期や防除薬剤について明らかにする。(要望機関名：八女普(H10))

[成果の内容・特徴]

1. チャノホコリダニは、主に上位展開1, 2葉に生息し、3葉以下では密度がきわめて低い(データ略)。弧状仕立て茶園では、8月中下旬頃から発生がみられはじめ、9月に急激に増加する。しかし、10月上中旬の整枝により被害葉とともに本種が除去されるため、発生が著しく減少し、薬剤防除が不要となる(図1)。
2. 5月以降整枝を行わない自然仕立て茶園では、本種は、8月中下旬頃から発生がみられはじめ、9月に急激に増加し、その後11月下旬まで発生がみられる(図1)。
3. コテツフロアブル、ミルベノック乳剤、サンマイトフロアブルは、本種に対する防除効果が高い(表1)。
4. 自然仕立て茶園では、本種の発生初期の9月上旬頃に薬剤防除を行うと、一番茶の母葉への被害を軽減することができる。また、上位展開葉の被害葉は、12月の摘心を行うことによって除去できる(図2、表2)。

[成果の活用面・留意点]

1. 防除基準に掲載し、チャノホコリダニの効果的防除法として活用できる。
2. 上記の薬剤は、カンザワハダニとの同時防除が可能である。
3. 煎茶園(弧状仕立て)のデータは、二番茶まで摘採したもので、三番茶まで摘採する体系では、新芽(翌年の一番茶の母葉)が8月中旬頃に伸長するため、被害を生じる。
4. 本データは、八女分場における調査結果であり、地域により発生活長はやや異なる。

[ 具体的デ - タ ]

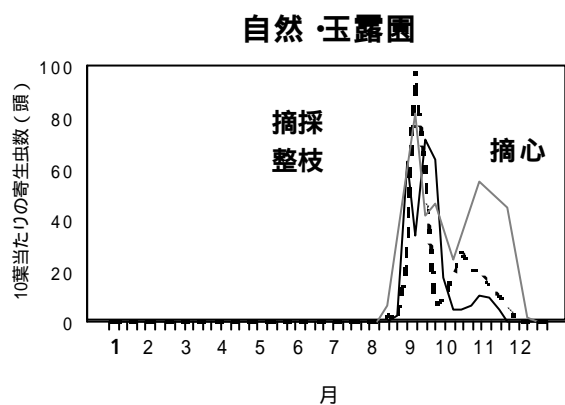
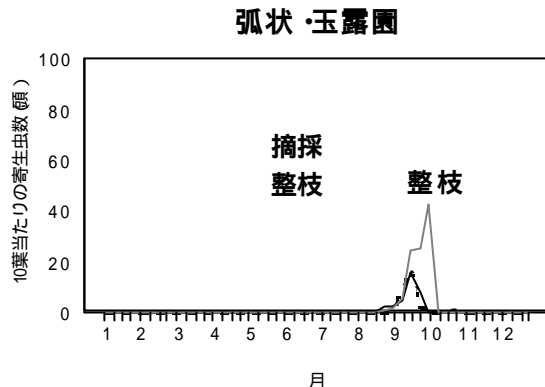
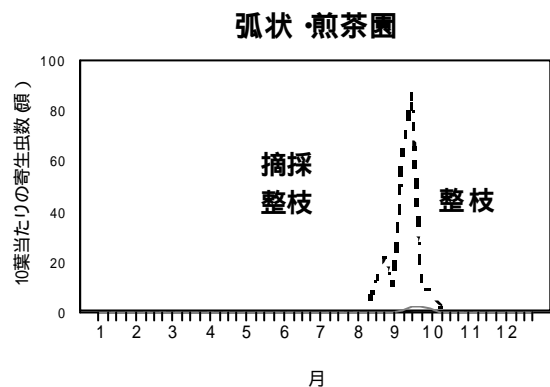


図1 栽培様式の異なる茶園におけるチャノホコリダニの発生活消長 (平成10~12年)

— 平成10年    ····· 平成11年  
 — 平成12年

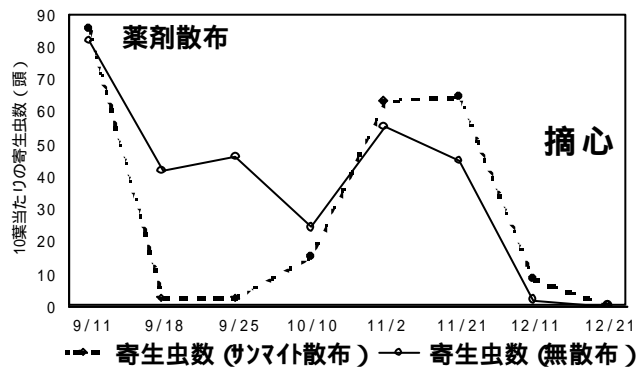


図2 自然仕立て玉露園における秋期防除がチャノホコリダニの寄生虫数に及ぼす影響 (平成12年)

表1 チャノホコリダニに対する主要な殺ダニ剤の防除効果 (平成11年)

薬剤名	希釈倍数	防除率 (%)
*コテツフロアブル	2000	92.6
*ミルベノック乳剤	1000	89.6
*サマイトフロアブル	1000	87.0
*ダニトロンフロアブル	1000	68.1
バノックフロアブル	2000	66.4
オマイト乳剤	1500	64.3
カーラフロアブル	2000	44.4
ケルセン乳剤	1500	39.6

注) 1. \*は、チャノホコリダニに登録がある薬剤  
 2. 散布時期：9月21日  
 3. 調査時期：10月5日

表2 チャノホコリダニに対する薬剤防除による被害防止効果 (平成12年)

試験区名	被害葉率 (%)
サマイト散布区 (9/11散布)	10.0
無散布区	43.3

注) 被害葉率は、12/21に摘芯後の最上位葉について調査。

[ その他 ]

研究課題名：チャノホコリダニの発生活消長と防除法  
 予算区分：県単  
 研究期間：平成12年度 (平成10~12年)  
 研究担当者：松田和也、清水信孝、中村晋一郎、森山弘信、堺田輝貴  
 発表論文等：平成10~12年度八女分場試験成績書